**12月19日　TedTech㈱　代表取締役 CEO　野村　哲雄　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

貴重なご講演、有難うございました。冒頭の御話で仰っていた「現在はとにかく変化の速い時代であり、先が見えにくくなっている」という御話が、まず印象に残りました。経済的な変化が目まぐるしいからこそ、歴史から学び先を目通すようにすることで、社会の流れのサイクルをつかむことが肝心であると再認識すると同時に、現代に生きる我々がそうした社会における諸問題に対するきちんとした意見や見解を持つようにすべきであると気付かされました。また、TedTech様のAnalyzerに関する御話がございましたが、私たちが普段PCを使用する際に何げなく気にしている起動や読み込みの速さをより向上させる技術を目の当たりにし、印象的に感じました。しかしそうした技術の開発・研究が盛んになっているかといえば、答えはノーであり、日本全体としてスペイン化が進んでいるというご見解をお聞きし、そうした現象に対するソリューションを考えてみる必要があると感じました。（経営学部　経営学科　1年）

先日、私物のパソコンをHDDからSSDへと換装する作業を行いました。これによってパソコンの動きはみちがえるほど速くなり、とても衝撃を受けました。このような経緯があった中で今日の御話を聞いたので、その変化の詳細を知ることができ、より理解できたような気持ちになりました。ま今までの様々な取り組みの中で得たことを経験というものを糧にお話しいただき、とても興味深く感じられました。(経営学部　会計・情報学科　２年)

最初から印象に残ったのが、bilingualよりもbiculturalという言葉で、確かにその通りだと思いました。言語が話せるのは、大事なことだが文化を知ることはそれよりもさらに価値が高いと感じました。これまで成功してうまくいった企業の話が多かったので、企業の実態を聞くことができて良い機会となりました。その他にも多くのためになる話を聞くことができて良かったです。 (経営学部 1年)

ある技術にはその技術を支える技術があるという形で枝分かれ的に技術が連鎖しており、そのあらゆる層で市場があるとわかった。その体系を理解してもそれぞれの層に属する技術を丁寧に理解していかないと下層の技術を開発することはできない。裏を返せばその下層の技術は需要が大きく価値も高い、すなわちお金を稼ぐ機会が多いということでもあるため何か一つを極めることは、視野が狭まっているようで、連鎖的に視野を広げているという逆説的事実に気づけて、面白いと感じた。（経済学部　１年）

現代までに至る時代のサイクルを企業の外側と内側の二つの観点からとらえた説明がとても分かりやすかった。特に企業の外側のサイクル（景気など）が過去から推測できる、という話がとても興味深く、参考になった。企業の失敗原因に関して掘り下げて話を進めていた方は今までほぼいなかったように感じるので、新鮮だったし勉強になった。企業の方針自体は良さそうなのに企業の内部の問題が原因で崩壊してしまうのはもったいないと思った。（経営学部　経営学科　1年）

最後にお話しされた「企業の実態』から、私たちは企業を見ていく上で表面的なイメージ(安定した終身雇用である、など)だけではなく、企業のサイクルを意識して分析するということが肝要ではないかと感じました。私たちが行うことになるであろう就職活動において、この考え方は大事になると思います。「安泰だから」という選び方ではなく、今どういった問題が日本において生じており、そうした中で自分が何の目的でその企業にエントリーするのかという選び方や、その企業のサイクルを分析して考えられるリスクを踏まえた選び方が求められるのではないかと考えさせられました。技術の側面から私自身の社会に対する認識を見直すきっかけとなるご講演でした。(経営学部　経営学科　1年)

今回は失敗例を多く取り上げてくださったので、「どのような会社が成功するか」という普段の視点から企業を見ることができ、とても参考になった。「日本と中国の技術格差は驚くほどついている」というお話は、自分にとって本当に衝撃的だった。中国の技術力について興味を持ったので、家に帰ったら調べてみたい。　（経済学部　経済学科　1年）

人目に触れるようなものを作る企業が就活においても人気だと聞くが、それを支える製品、技術がなければ、その有名なものも作れないだろうし、細分化される前の製品ってことで一つの製品でいろんな製品に応用されそうな気がするので、地味でも堅実に技術を市場を研究すべきかと思った。技術だけあってもビジネスだけ知っていても良くなくて、どちらについても広く深く知っておくべきだと感じた。今の若者はゲーム脳なこともあって長期的に結果を出していくのが耐えられないのではないかと思った。一回一回の失敗について考察するのも良いと思うけれど、今回のように母数を多くして傾向を考察する方が、教わる側としてはためになると思うし、楽しいと思った。 (理工学部　化学・生命系学科　３年)

手のひらの上に乗るほどの小さな部品に何千万もの価値があるある限りと知り、精密機械の業界は日進月歩で目まぐるしく変化が起こっている現代の中でも特に技術発展が著しい分野だと改めて感じた。企業の寿命が自分の寿命よりも短いという話は他の講師の方からも聞いたことがあった。自分が勤めている会社が倒産してしまっても他の職を見つめて生き残れるように自分自身のスキル・能力を高めることが必要だと思った。(経営学部 経営学科 1年)

日本の株式会社115万社に対して、100年以上存続いしている企業は２万社、200年以上存続している企業は1000社ほどしかないということを知り、今隆盛　な会社に入社したところで安定んは保障されてないのだと学びました。そして、反対に不安定なイメージのあるベンチャー企業であっても大企業になる可能性を十分にひめていることを学び、今大企業と言われていて安定がえられそうな企業を選ぶのではなく、企業の内部をよくみて就職する必要性を感じました。日本の経済を活性化するためには企業の活力が不可欠であるが、ベンチャー企業で成功する企業はほんのわずかだという矛盾を変えるには、ベンチャー創業での失敗などから学びを得ることが有効だと考えました。(経営学部　経営学科　１年)

個人の商品に使われるものから、法人向けの産業用のものまで扱っているということで、個人向けと法人抜けの両方を知ることが出来ました。産業技術総合研究所というBCとは異なる特殊な立場でベンチャーを見てきた野村さんのお話を聞くことが出来たのは貴重な経験でした。また、今までの講演者の方々と野村さんのお話から人間関係によって会社が失敗するケースが意外と多いということ、ネームバリューはまだまだ日本では無視出来ないものだということが分かりました。 (経営学部 経営学科 1年)

なんといっても印象的なのが、分野的には大きく捉えられず、一つであるのであろうが、非常に多くの会社に入社し、非常に多くの会社を創業されているという点です。それに加え、それぞれの会社でトップまで上り詰めてから別の会社に転職しているという点もかなり印象的でした。やはり一度やり始めたことは最後まで責任を持ってやり遂げようということなのだろうと思いました。また、今や英語ができることが当たり前と言われているなか、海外に言語の勉強をしにいくというよりは、文化を見にいくという意味が重要になるというお話が、留学を考えている私にとって印象的でした。(経済学部 経済学科 1年)

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

技術、資本、思想などといった必要なものがあるが、その中に“時間の概念”を取り入れ、「良い場所」に「良いモノ」を「良い時」に提供できるよう努めたい。（教育人間科学部　学校教育課程　3年）

講演を聴いてベンチャー企業を起業するために大切なことは「文化の研究」なのではないかと思いました。何かを売り出そうとするとき、結局は消費者の存在が大きくなってくるので、消費者の行動を推測し、それがある程度正確性を帯びるためには、消費者の文化を研究し、どのような経営をするべきかを決定する必要があるのではないでしょうか。今後、このような考え方を持ち続けたいです。良い刺激を受けることができました。(経済学部 経済学科 1年)

今日の講義を聞き、「温故知新」という言葉が思い浮かびました。遡れるから高い、というのはよく刑事ドラマなどで「量産品でこの靴からは辿れなかった」などのセリフを聞くのでかなり理解できます。つまり自分も、遡れる人間もしくは遡ることができるというスキルを身につけていれば価値が上がるということだと思います。専門のスキルかもしれませんが、それくらい自分をアピールできる技があれば社会の波に負けないと思います。また、カタカナの言葉がほとんどわからなかったので、一般常識としてもう少し理解できる人になりたいです。社会に出る前だからこそできることとして、大学で学べることをすべて吸収したいです。（1年　経営学部　経営学科）

**授業スタッフの感想**

技術の話は少し難しかったですが、失敗例を多く挙げて話してくださったので、すごい技術でも経営法がよくなかったり、環境にあってなかったりしたら成功できないということがよく分かりました。また、お話をしていて、いろいろな分野への知識がすごくて、やはりいろいろな所にアンテナを張っておくことは大事なんだなと感じ、私も視野を広げたいと思いました。

今回の講演も興味深く聞くことができました。マネジメントというよりは、技術色の強いものでしたが、文系だから技術の進歩を知らなくてもいいわけではないと思うので、刺激的に感じた90分でした。歴史から学ぶというのも、非常に大事なことだとも思いました。過去のパターンや失敗などを知ることで、現状を考えることができるのだと思います。春学期のトークセッションの際は、やさしくもしっかりした印象を受けたので、より深く斎藤氏のお話を伺えると思うと次回の講演も楽しみです。